秦野市PTA連絡協議会信条

１．信頼と協調で
２．子どもの健全な成長を
３．充実した家庭に

（昭和48年10月1日制定）

はだのP連だより

発　行　秦野市ＰＴＡ連絡協議会
編　集　秦野市ＰＴＡ連絡協議
　　情報委員会
事務局　秦野市立本町中学校
　　秦野市富士見町１－１
　　ＴＥＬ　８１－０３４２
印　刷　(有)みうら印刷

防災意識を高めよう

東日本大震災から５年、熊本地震から７ケ月が経ちます。先月も鳥取で震度６弱の地震がありました。地震や台風、水害などの被害が多発しています。自然災害を食い止めることはできませんが、正しい知識と備えで被害を減らすことはできます。

災害で慌てないために

もし、秦野市で大地震が発生したらどんなことが起きると思いますか。

土砂災害が発生し、善波トンネルが崩れ、松田方面の道路も遮断されるおそれがあります。また東名高速道路も寸断され電車も止まってしまう可能性もあり、秦野市は陸の孤島になってしまうかもしれません。

災害時には、自分の身は自分で守ることが、重要になってきます。そのためには、防災に対する正しい知識を身につけ、食料品などを備えておく必要があります。

一般的に言われているのは、家族分の食料・水・防災用品を３日分、できれば１週間分を用意することです。

ある家庭では、キャンプ用のランタンを玄関と寝室、リビングに置いています。非常持ち出し品は、重いのでいくつかに分けて準備をしています。

また、家はつぶれる可能性があるので、外に倉庫を作ったり、車に備蓄している家庭もあります。

以前は、火を消す行動が一番でしたが、現在は震度５以上になるとガスは遮断するようになっています。火を消しに行くのではなく、机の下にもぐる行動がよいとされています。学校では、避難訓練や引き取り訓練を実施することで、防災の意識づけを教えています。

防災の正しい知識を持ち、慌てずに行動できる心構えが大切です。

力を合わせて毛布で担架を作る

アンケートを実施

各小中学校に設置されている市の防災備蓄倉庫に保管されているものは自治会の方が優先ではありますが、帰宅困難な児童、生徒のためにも使用できます。

その他に、学校独自で備えているものはあるのでしょうか。市内の小中学校にアンケートを実施しました。

結果、飲料水は８校、食料は７校、毛布などの防寒具は３校が備蓄していることが分かりました。また、灯油ストーブを用意している学校もありました。

こんな取り組みも

アンケートで備蓄があると答えてくださった学校の中から、小学校２校中学校１校にお話を伺いました。

Ａ小学校

児童１人に対して、飲料水500ml１本を備蓄。約７年間期限あるものを空き教室に保管。

飲料水は、卒業時に児童に渡し、入学時に購入しています。

この取り組みは２年前にＰＴＡ本部からの提案で始まりました。

Ｂ小学校

帰宅困難な児童数を想定して、約２学年分の飲料水、缶詰パン、600枚の防寒シートを特別棟の倉庫に備蓄。

消費期限が来る前に、飲料水は学校イベントの際、参加者に配っています。缶詰パンは５年生のキャンプの朝食時に提供されます。防寒シートは、卒業時に渡す予定です。

この取り組みは、東日本大震災をきっかけに始まりました。

Ｂ校の備蓄品

Ｃ中学校

生徒１人に対して、飲料水500ml１本、カロリーメイトロングライフ２箱を備蓄。

これらは、入学時にＰＴＡ会費から購入し卒業時に生徒に渡す仕組みです。

備蓄するきっかけは、東日本大震災の時に生徒を引き取りにこれなかった保護者がいたためです。生徒が一晩を学校で過ごせるように１食分を用意しています。

また、土砂災害の可能性がある地域のため、備蓄品は４階の教材室に保管しています。

今回、アンケート調査と取材をして、学校の立地条件や地域性、児童生徒数などにより対応はさまざまであることが分かりました。

市内２２校の独自の備蓄について
アンケート調査　実施日　8月29日

Ｑ：１　飲料水はありますか

はい　８校	いいえ　１４校

「はい」と答えた備蓄内容
・児童、生徒１人に対して水１本（５００ｍｌ）がほとんど

Ｑ：２　食料はありますか

はい　７校	いいえ　１５校

「はい」と答えた備蓄内容
・児童、生徒１人に対して乾パンやクラッカーなど１食分

Ｑ：３　毛布などの防寒の準備はありますか

はい　３校	いいえ　１９校

「はい」と答えた備蓄内容
・毛布５０枚・防寒シート６００枚・アルミシート１人１枚

家族を守るために

いつどこで災害に見舞われるか予想することは困難です。安全に避難し連絡が取れるように、家族で話し合うことが必要です。

また、いつも親が側にいるとは限りません。子どもが１人でも行動できるようにしておくことも大切です。

例えば、地震が起きた時に、安全に家までたどり着く道を一緒に歩いて確認しましょう。

また、毎月１日と15日には、災害用伝言ダイヤルの使い方を体験してみることもお勧めします。知識があるのとないのとでは、安心の度合も違ってくると思います。

日頃から、防災意識を高めていくことが家族を守るために必要なのではないでしょうか。

読まれる広報紙を目指して

広報クリニックに８５名が参加

平成28年９月９日、15日、29日に東公民館で市内の小中学校の広報委員を対象に「広報クリニック」が行われました。

講師は、長年にわたり学校新聞やＰＴＡ新聞作りに携わっている石田崇男（いしだたかお）先生。「保護者が知りたいことやＰＴＡ全体の動きを知らせましょう」と話されました。

各校が今年度発行した広報紙を順に見ながら、良い点や改善すべき点、見出しの例をあげるなど分かりやすくご指導いただきました。

講評を聞く広報委員

参加者の声

・広報紙を作ることは難しいと同時に面白いと思った
・見出しのつけ方など基本的なことを学べて良かった
・他校と比較でき客観的に見れて良かった

中でも「今後の作業にとても役立つ」という感想が多く、広報委員としての熱意が感じられました。

家庭と学校をつなぐ役割をしている広報紙。ぜひ、親子で読んでみてはいかがでしょうか。

３月には、広報紙展示会も開かれます。自校だけではなく、他校の広報紙も読んでみてはいかがですか。

宮城県気仙沼市の三陸新報社のコラム欄【萬有流転】に「はだのＰ連だより第108号」の引き取り訓練の記事が取り上げられました。

「東南海、南海地震が心配される地域でもあるが、有事の際の対応に取り組んでいることが分かる。被災地では、町形成が急務。しかし、そのことだけに気を取られていないか、大地震の教訓を生かしているかなどを、あらためて考えさせられた広報紙だった」と書かれていました。

私たちも、大震災から得た教訓を忘れず、発信し続けていくことが大切だと気づかされました。

情報委員会 NO.10 だより

小中学生と情報委員の座談会

親子で話そう震災のこと

８月１０日　はだのこども館

この夏、東日本大震災の被災地を訪れた２人の情報委員。現地を見て感じたこと、思ったことを小中学生７名と情報委員に伝えました。震災のことをどう思ったのか、座談会で聞いてみました。

覚えていますか３・11のことを

司会　東日本大震災から５年が経っていますがその時のことを覚えていますか？

中２Ａ　僕は小２で、家にいて揺れたのを覚えています。

中２Ｂ　私も小２で、学校の階段にいて、先生に言われて校庭でお母さんが来るのを待っていました。

小４Ｃ　年少だったからあんまり覚えてない。

中２Ｄ　小２で帰りの会をしていて、机の下にもぐって、先生と集団下校して帰った。

母Ａ　学校に迎えに行ったらみんな校庭で並んでいたなぁ。

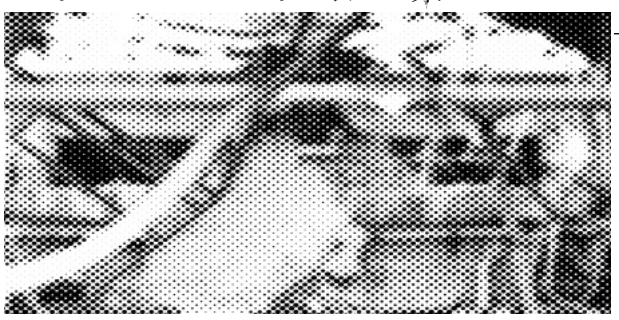
母Ｂ　学校からのメール配信も頻繁に入って安心できたよね。

母Ｃ　秦野も停電で信号機が消えていたね。電車も止まっていたし、断水したところもあったね。

津波被害とその対策

司会　津波で建物が壊れた写真や動画を見てどう思った？

中２Ｂ　津波の高さがよく分からなかったけど、建物の３階まで壊れているのを見てすごいと思った。



震災当時のままの道の駅「高田松原」

中２Ｄ　あんなに上まで水がくるなんてびっくりした。

母Ａ　実際に行ってみて、津波の高さには驚いたよ。今は、海岸に12メートルの防潮堤が造られているよ。

母Ｂ　津波は、平らな土地ほど速く広がるんだって。今は、避難用に小高い丘を造って、その周りにいろいろな種類の木を植えているんだよ。

小４Ｅ　なぜいろいろな木を植えているの？

母Ａ　津波の勢いを止めるためなんだ。いろいろな木の根を絡ませることで、抜けにくくしているんだって。

中２Ｇ　ただ木を植えるんじゃないんだ。

母Ｇ　秦野は津波は来ないけど、山が崩れて土砂災害が起きると言われているよね。

母Ｃ　建物が壊れたり避難所で生活する人も出てくるよね。

自分で考えるのが大事

司会　避難所ってどういうイメージがある？

中１Ｆ　快適ではない。

中２Ｄ　困った人がいっぱいいると思う。

母Ｅ　そうだね。困っている人がたくさんいるよね。

司会　もしみんなが避難所で過ごすことになったら、何かできることはあるかな？

中１Ｆ　食べ物を運ぶことならできる

中２Ａ　環境を整えてあげる

母Ｅ　テレビで避難所を見たけど、中学生がすごく活躍しているのが印象的だったな。

小４Ｅ　具合の悪い人がいたら「大丈夫？」って声をかけてあげる。

母Ｆ　すごいね。声をかけるってとても大切なことだよね。

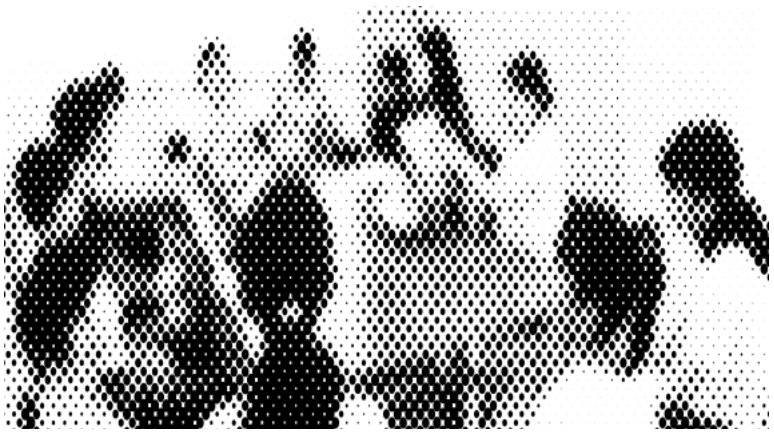
小４Ｃ　いろんなことをよく分かりました。

小４Ｅ　家に非常食が無いから準備したい。

中２Ｂ　地震に備えて家族で相談したい。

中１Ｆ　家族と集合場所を決めようと思った。

中２Ｇ　非常食をもう少し用意しておきたい。



震災のことを語り合う親子

知っていたほうがいいと思う。

小４Ｅ　自分で何ができるのか考えるのが大事だと思う。

母Ｃ　そうだよね。自分で考えて行動できるといいよね。

今日感じた事

司会　最後に参加してみてどうだった？

小４Ｃ　津波がガソリンスタンドの看板の高さまで来ると分かってびっくりした。

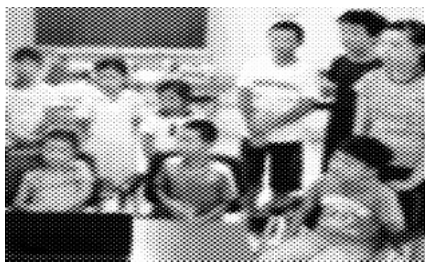
中２Ｄ　写真を見せても

中２Ａ　いろいろなことを考えた。

母Ｆ　集合場所を決めようと思います。

母Ｅ　非常食は家族分はないので、すぐに用意したいと思いました。

司会　今日の座談会で、みんなの震災に対する意識が変わるような気がします。



被災地の今を見る子どもたち

▼同席した低学年の子どもたちに「逃げる時に何を持って行く？」と聞いてみました。ゲーム機を持って行きたい男の子に対し、女の子はお金を持って行きたいと現実的な意見でした。

自分の身に置き換えて

被災地の話を聞いて、災害によって生活環境が変わってしまうことや、３・11から５年経っても復興はまだまだということが分かりました。

「未災地（みさいち）（まだ震災が起きていない地域）」の私たちは、被災地のことを忘れてはいけません。

自分の身に置き換えて考え、各家庭で震災や被災地のことを話してみてはいかがでしょうか。

大切なのは相談と共感

いじめを考える児童生徒委員会

市内小中学校の児童生徒で構成されている「いじめを考える児童生徒委員会」の第３回（全４回）が、８月18日鶴巻公民館で行われました。

今回は、児童・生徒38名、市Ｐ連役員・先生方36名が参加しました。

講師に臨床心理士のヴィヒャルト千佳（ちか）こ氏をお迎えし「お友達のＳＯＳをどのようにキャッチするか」の講演を聴きました。

夏休み前に配布されたメッセージカードは、この委員会で作成されました。カードを友人から受け取った時、どのような対応が望ましいのかを教えていただきました。

「悩みがあるときは誰かに相談することが大切。相談されたら話をよく聞いて共感し、気持ちをくんであげることが大切」と話されました。共感して聞く・聞かない態度をみんなで実践しました。

中学校区に分かれたグループワークでは、「人間は相手と向き合わなければ、気持ちを理解できないし、理解しようとも思わない」「話をするときは、お互い時間に余裕のある、リラックスした状態でするのがいい」など、有意義な意見交換がありました。

中学校区の心のこもったメッセージカード

中ブロック会議に64名が参加

10月14日　本町公民館にて

中ブロックは、秦野・伊勢原・平塚・中郡（大磯・二宮）の市郡Ｐ連で構成されています。

横須賀市ＰＴＡ協議会顧問　□□□□氏を講師にお迎えして「子どものためのスマートフォン対策」をテーマに開催されました。

ケータイネット安全委員会　情報モラル教育指導者でもある根本氏は、「ＳＮＳ・スマホ問題は学校よりも保護者と子どもとで話し合う問題。現在スマホの所有率は、小学生で23％、中学生で70％となっており、スマホの所有率の増加と共に『ネットいじめ』が広がりを見せている」と話されました。

参加者からは「ネット依存には気を付けたい」「中古のスマホは、フィルタリングされていないと知ったので注意したい」「ＬＩＮＥの使い方を親子で確認したい」などの感想が聞かれました。

保護者ができることは子どもと一緒にルールを決め、実行させることではないでしょうか。

スマホ画面の向こう側にいる相手にも、生活があるので、子どもたちには思いやりをもって使ってほしいです。

編集後記

東中学校の広報委員の生徒が発行している「東中新聞（とうちゅうしんぶん）」１０７０号を目にする機会がありました。中学生が震災について考え、発信していることに感動しました。

その記事の中で「地震が起きて一番心配なことは家族の安否」という答えに対し「家族で落ち合う場所を決めている家庭はわずか３割」という結果に驚きました。

みなさんも日頃から防災について、家族みんなで話し合う機会を作りましょう。その際にＰ連だよりを活用していただけると幸いです。

【編集委員】□□□□（大根小）□□□□（西中）□□□□（東中）□□□□（西小）□□□□（南が丘小）□□□□（南中）□□□□（本町小）